

# 平成26年度 学校教育目標

京都市立京極小学校

## 教育目標

心身ともに健康でたくましく、個性の輝く京極の子

### 【目指す子ども像】

- ・すすんで学ぶ子
- ・優しく思いやりのある子
- ・ねばり強く最後までやりぬく子
- ・健やかでたくましい子
- ・地域を愛する子

### 【目指す教職員像】

- ・豊かな愛情と確固たる指導力をもち、一人一人を大切にする教職員
- ・使命感と向上心をもち、自己研鑽に励む教職員
- ・健康や安全に留意し、互いに協力し、高め合う教職員
- ・児童・保護者・地域から信頼される教職員

### 【目指す学校像】

- ・楽しい学校
- ・優しい学校
- ・美しい学校

### 具体的目標

- ・子どもたちが主体的に学ぶ学習活動を展開し、基礎・基本を確実に習得し、自ら考え、判断し、表現できる力を養い、**すすんで学ぶ子**の育成を目指す。
- ・人権尊重の精神や思いやりの心を育むため、道徳教育をはじめとするあらゆる教育活動の充実を通して、**優しく思いやりのある子**の育成を目指す。
- ・何事にも積極的に取り組み、**ねばり強く最後までやりぬく子**の育成を目指す。
- ・生涯を通じて、健康を保持・増進しようとする意欲や態度、また、様々な危険から自分を守るための知識や判断力を育て、**健やかでたくましい子**の育成を目指す。
- ・地域行事に積極的に参加し、地域の方々とのふれあいを通して**地域を愛する子**の育成を目指す。

### 学校経営方針

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、一人一人のよさと可能性を最大限に伸ばす学校
  - ①教育指導計画を基に、毎時間の「児童の出口の姿」を意識したきめ細かな授業計画を立てること、計画的な時間配分で授業時数を確実に確保することで児童の学力向上を目指す。  
\*教え込む場と児童が主体的に活動する場を明確にした授業の構築。
  - ②よりよい人間関係を築くための『コミュニケーション能力(伝え合う力)』を身につけさせるために、あらゆる教育の場を通して言語活動の充実を目指した取組を推進する。
  - ③外国語活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする能力を養うとともに、日本と外国の言語や文化に対する理解を深める活動を推進する。
  - ④「全国学力・学習状況調査」「ジョイントプログラム」「プレジョイントプログラム」等の客観的な資料の分析をもとに一人一人の実態把握に基づいた授業改善等の取組を計画的に進める。
  - ⑤学校や地域の図書館を計画的に活用し、子どもの主体的・意欲的な学習や読書活動の充実を図る。
  - ⑥積極的にICTを活用し授業改善を図るとともに、児童に情報処理能力や情報モラルを身につけさせる取組を計画的に進める。
  - ⑦子ども一人一人の社会的・職業的自立に向け、学校生活やあらゆる教育活動を通じて、子どものキャ

リア発達を支援する取組を推進する。

⑧児童の学習意欲を高める取組の充実を図る。(おはよう読書、学級チャレンジ、ふれあいタイム etc)

⑨家庭学習・家庭読書を始め、自学自習できる力を育む適切な指導と支援を工夫する。

## (2) 人、命、自然を大切にする学校

①子ども一人一人の人格を認め合う学級づくりと自らの言動を振り返り、生き方を高め、自尊感情を培う取組を推進する。

②すすんで挨拶することにより、人との温かいかわりを大切にする心を育てる。

③様々な体験活動に取り組み、学校や社会生活上のルールやモラル（規範意識）、道徳的实践力などを身に付けさせる。

＊清掃、ボール・一輪車の後片付け、教室間の静かな移動、時間を守る、トイレのスリッパの整頓、集団宿泊行事、行間体育 等

④あらゆる教育活動を通して人権教育を実践する。また、その要としての道徳教育及び道徳の時間の充実を図る。

⑤環境に対する感性を培う取組を推進し、様々な環境問題について考え、その解決に向け主体的に行動できる態度を育成する。

⑥家庭との連携を密にし、子ども一人一人に食事、運動、休養・睡眠の調和のとれた生活習慣を身に付けさせる取組を推進する。(早寝、早起き、朝ごはん)

⑦災害発生時はもとより日常生活の中の様々な危険から自分を守るための知識と判断力を身につけさせる取組の充実を図る。

## (3) 家庭・地域と協働で子育てをする「地域ぐるみの学校づくり」の推進

①「生活科」「総合的な学習の時間」を中心に「地域で学ぶ」「地域に学ぶ」体験活動を充実させる。

②毎月の自由参観、ホームページや学校だよりの地域回覧など、学校からの積極的な情報発信を行う。

③地域住民との交流を充実させるとともに児童の地域行事への積極的な参加を促し、地域の一員である意識を育てるとともに、地域を愛する心を育てる。

④確かな教育実践を進めるための学校評価システムの活用と公表および学校運営協議会の活動の充実を図る。

⑤学校、家庭、地域が連携して教育力を高めるために、家庭訪問、授業参観、懇談会、休日参観、休日運動会などの充実と学校運営協議会や地域行事への積極的参画に努める。

## (4) 組織としての学校

①命の尊さ・大切さを深く受け止め、子どもの命を守りきる教職員体制のさらなる充実と、子ども自身が命を大切にできる学校教育を実践する。

②個が輝く学校づくりを目指して教職員が自己研鑽に努め、「教育指導計画」に基づく指導の徹底と公開授業等の積極的な実践により、子ども一人一人の力を伸ばす指導の質的充実を図る。

＊学級担任や校務分掌上の役割、その他あらゆる立場での教育のプロとしての実践。

③P (Plan)・D (Do)・C (Check)・A (Action) サイクルを日常の教育活動に位置づけて、継続的に取組の改善に努める。

④教職員一人一人が組織の一員として様々な情報や目標・取組・成果を共有し、共通実践することで、活気のある学校づくりを目指す。

＊報告・連絡・相談（ほうれんそう）と企画・提案などの事前承認の徹底。

⑤校務の効率化と協働に努め、心身の健康維持を図る。

⑥児童や保護者の話を徹底して聞き、児童や保護者の心のつぶやきに耳を傾ける。